

記念講演

21世紀への提言

これからのレジャー・レクリエーションのあり方を探る —若者のレジャーライフを中心に—

会長 浅田 隆夫

1 テーマの設定について——ここでの若者は、「団塊の世代」以降の世代（「断層の世代」、「団塊ジュニアの世代」、「新人類」の新しい世代）を指し、これらの世代は「団塊の世代」に比し、「タテマエ」より「ホンネ」を主とする自然的なオートノミー層ともいえる世代であるといわれています。それだけに、21世紀の新しい生活文化—L/R文化の創造には、これらの「新人類」のリアリティーに富むL/R行動如何が有力な決め手になるのではないかと考えたからです。

2 若者のレジャーライフ——今日のように、高度情報化により世界の変化がリアルタイムで入手可能になると、これと類似の映画・演劇などとの区別が困難になり、あらゆる出来事がシミュレーション化し、その結果、虚構と現実との区別が希薄になってきます。特に、若者はテレビゲームやマイコン、エレクトロニクスの中で育っただけに、別名カプセル人間ともいわれているようにハイテク、コンピューター、マイクロエレクトロニクスと関わるL/Rもその特色となっています。また、生活の質が問題にされ、心の豊かさが求められるようになると、人間の内面的な深みに生活の比重がかけられるようになり、これと同時に、内面的な深みと結びついたL/Rも求められるようになります。ここでは、大学生をも含む若者のL/Rについて環境的条件との関わりで、どこにどんな特色がみられるのかを明らかにしたいと思います。

3 21世紀への選択——20世紀後半は、競争の悪あがきの時代であったし、21世紀へ向かうこれからの5年間は最も重要な選択の時代だといえましょう。それは、21世紀が競争より共生、計画より自由、贅沢より質素、物より心、エコノミストよりもエコロジスト、我欲よりも公欲、策略よりも正義……といった思想へ変革せざるを得なくなった世界だからです。まさに、そこでは自然に、「本もの」の生き方が求められるということです。

4 「本もの」のL/Rの創造に向けて——このような21世紀の世界観に立って、若者のL/Rのありようを検討し、「本もの」のリアルなものを検証し、いかにすればこれを人類の幸福に志向させうるか、また、そのためのボランティアリズムやリーダービリティの醸成、ネットワークづくり、さらには、それらに支えられたL/Rの社会的システムづくりも求められることになるでしょう。方法論の問題も含めて、その人なりの自己完結的なL/Rのあり方について考えてみたいと思います。